

『岩崎純一全集』第五十五卷「科学技術、産業（一の五）」

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第五十五卷「科
学技術、産業（一の五）」

医学・生理学・薬学および医療、保健、薬
物

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第五十五巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、医学・生理学・薬学および医療、保健、薬物に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

第一部 岩崎純一の知覚世界

第二部 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計

第三部 日本の共感覚者女性の初潮に関する研究

第四部 日本の共感覚者女性の性的特徴に関する研究

第五部 私の対女性共感覚記録

第六部 『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』（電子書籍版を含む）

第七部 薬物使用者に見られる共感覚体験欲求の機序

第三編 三十歳～三十九歳

第一部 拙著が出版されます

第二部 拙著『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』について

第三部 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計

第一章 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計(1)

第二章 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計(2)

第四部 共感覚に関連する知覚様態・症状

第五部 共感覚に関連する知覚様態・症状の一覧

第六部 麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ・指定薬物等による共感覚の出現の知見の有無と当該薬物の国際条約及び世界各国・日本国の法令等における扱いとの対応表

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳～二十九歳

第一部 岩崎純一の知覚世界

2005年1月16日 起筆

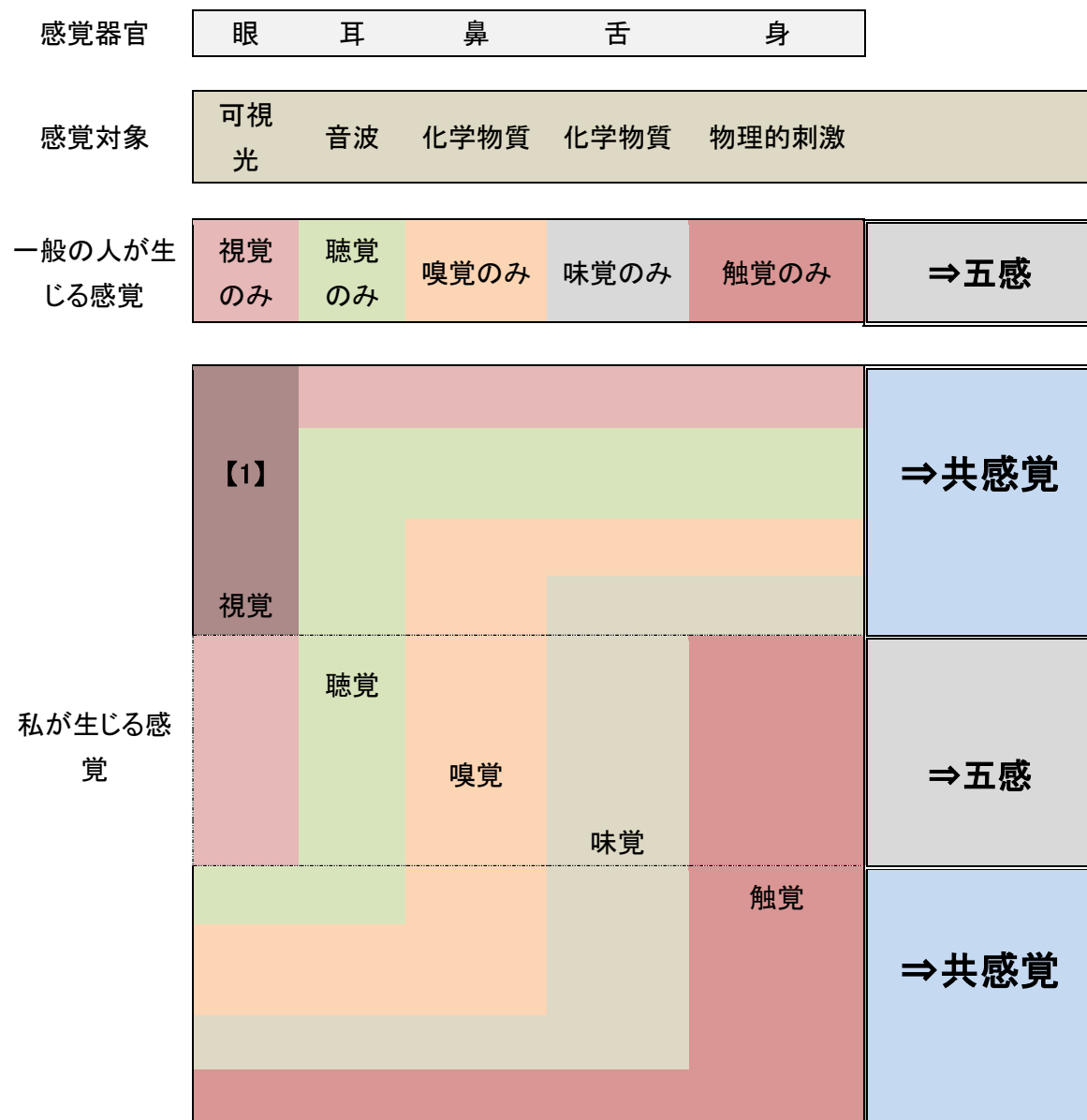
2005年3月15日 公開

2008年6月20日 加筆

2016年9月11日 最終更新

管理人岩崎純一の知覚世界(1)

- 点線で囲ったところが、いわゆる五感。
- 一見すると共感覚ではない領域も共感覚に含めているが(例えば【1】の領域)、これは、文字に色が見える感覚など、一般の人には存在しない「眼→視覚」「耳→聴覚」などの領域も共感覚と呼称されているため。



岩崎純一

サイト：<http://iwasakijunichi.net/>

管理人岩崎純一の知覚世界(2)

これらの知覚・症状は、共感覚者仲間、知人、大学教授や医師などの専門家といった私と面識のある第三者から「主に食事の席で」指摘された内容の一覧であり、ほとんどが当てはまるという自覚はあるものの、あくまでも参考程度に掲げておいた。

特に、読字障害、離人症、アスペルガー症候群については、社会生活に支障がない限りそうと診断されない傾向が強いようであり、現在の（あるいは成人以降の）私には全く当てはまらないと考えられる。

元より、これらは主に幼少期・児童期・10歳代の頃の知覚世界であり、現在ではほぼ消失している知覚もあるが、共感覚のように現在もなお強固に保持し続けている知覚もある。

知覚・症状	生理学上の呼称 (専門家と話したりメールしたりするときに仕方なく使っている呼称)	2009年現在の生理学上の扱い	私の呼称(今のところ、こちらに変えてほしいと思っている呼称)	私の観点	2009年現在、私の体験頻度
文字に色が見える 音に色が見える 風景に音が聞こえる 味に形がある 匂いに形がある 音に匂いがする 形に色が見える など...	共感覚 (近年、「刺激→生じる知覚」の順に grapheme→color などと表記する規定が設けられた)	正常、または神経系の異常。 (ただし、DSM や ICD には未記載。)	共感覚 (自分にとってはただの「感覚」だが、今はこう呼ぶほか仕方ない)	病理・神経異常ではない。 五感分裂以前のヒトの普遍的知覚。先住少数民族では今も普通。	常時(五感も共感覚も常に自覚)
いわゆる「感受性・感性が極めて豊かな人物」	Highly sensitive person (HSP)	能力・障害	このままでよいと思う。	社会生活が極めて困難な場合以外は、特に問題視するようなものではない。	常時

読字の困難、 黙読の困難、 文字・記号と一 般的な風景との 同一視	読字障害、 失読症、ディ スレクシア (の疑い)	障害	読字困難、 非抽象形状 覚	病理ではな い。江戸時代 までの日本人 及び中世まで の欧州人では 普通。	時々。稀 に、直前に 強い精神的 ストレス。
言語理解の困 難、 ヒトの言語と一 般的な自然音 (鳥の鳴き声な ど)との同一聴	単独の呼称 なし	障害	聴語困難、 非抽象音声 覚	病理ではな い。江戸時代 までの日本人 及び中世まで の欧州人では 普通。	時々。稀 に、直前に 強い精神的 ストレス。
絶対音高の特 定	絶対音感	能力	絶対音高感	幼児は皆保持 する。	常時
閃輝状の視覚 障害、 視野狭窄、 視野周辺部の 暗黒化、 強度の頭痛、 嘔吐、失語	閃輝暗点、 閃輝性暗点 症、偏頭痛	脳血管障 害、または神 経系の異 常、または精 神障害など	閃輝暗点型 偏頭痛	責任感があ り、ストレスを 溜め込みやす い真面目な性 質の女性に多 い傾向あり。	時々。しば しば直前に 強い精神的 ストレス。
非抽象的な写 像記憶、短時間 での羅列的な大 量の記憶	直観像記 憶、写真記 憶、映像記 憶	能力	素晴らしい呼 称。このまま でよいと思 う。	幼児は皆保持 する。	時々。稀に 直前に強 い精神的 ストレス、 または極度 の感動。
目視のみによる 対象者・対象物 への触覚	ミラータッチ 共感覚	正常、または 神経系の異 常	目視触覚	網膜・視神経 から大脳視覚 野までの一連 の過程が視覚 として独立す る前はヒトの 普遍的能力。 ヒト以外の霊 長類・哺乳類	時々

				では普通。	
遠方からの女性の排卵・月経・発情の感知、女性に対するミラータッチ共感覚	単独の呼称なし	正常、または神経系の異常	対女性共感覚	メスを外敵から守護するためのオスの健全な能力。ヒト以外の霊長類・哺乳類では普通。	しばしば
巨視症状、小視症状、変視症状、時間の長短の相対化、偏頭痛	不思議の国のアリス症候群（これのみ可愛い名前なのはなぜ？）	精神障害、または神経症性障害	時空変質感	幼児は皆保持する。	頻発
離人感、身体からの自我の遊離、傍観者化したもう一つの自我、痛覚の減退	離人症、離人性障害（の疑い）	精神障害、または神経症性障害（解離性障害の一。）	離人感、自我離脱、自我観望	病理ではない。精神的・肉体的外傷をもたらす外敵からの防衛本能。動物では普通。	頻発
コミュニケーション機能の遅滞、鋭敏な五感、膨大な記憶能力	アスペルガー症候群、高機能自閉症（の疑い）	発達障害（軽度の自閉症の一。自閉症とアスペルガー症候群は分けるべきとする学者も多数いる。）	呼称を与えない。	進化の過程で人類総発達障害の時代があった可能性がある。	常時（人格・体質そのものの基層）

岩崎純一

サイト：<http://iwasakijunichi.net/>

管理人岩崎純一の知覚世界(3)

これらの知覚・症状は、共感覚者仲間、文化人類学・言語学愛好家仲間といった私と面識のある第三者から「主に食事の席で」指摘された内容の一覧であり、ほとんどが当てはまるという自覚はあるものの、あくまでも参考程度に掲げておいた。

特に、知覚世界(2)の読字障害、離人症、アスペルガー症候群については、社会生活に支障がない限りそうと診断されない傾向が強いようであり、現在の(あるいは成人以降の)私には全く当てはまらないと考えられる。

元より、これらは主に幼少期・児童期・10歳代の頃の知覚世界であり、現在ではほぼ消失している知覚もあるが、共感覚のように現在もなお強固に保持し続けている知覚もある。

知覚・症状	一般の成人男性	岩崎純一	霊長類・哺乳類のオス
外界知覚の基層	五感	共感覚	共感覚か
記憶方法の基層	抽象的記憶	直観像記憶	直観像記憶
周期的な発情期	消失	消失	保持
自分と同種のメス(女性)の周期的な発情期	残存(今でも女性は性周期によって、体調・心理・性欲・化粧の乗り・五感の鋭さなどが変化)	同左	保持
自分と同種のメス(女性)の基本的な排卵方法	周期排卵	同左	交尾排卵または周期排卵
メス(女性)の性的能力との対比	不均衡、非効率	半均衡、半効率、動物のオス時代を維持か	性衝動・発情期は互いに一致
メス(女性)の排卵の遠方からの感知その方法	できない科学的分析	稀にできる共感覚	できる共感覚か
メス(女性)の月経の遠方からの感知その方法	できない科学的分析、独立した五感(視覚・嗅覚など)、言語コミュニケーション、または特	時々できる共感覚	できるそもそも衣服を着ないので、視覚でも分かるが、共感覚か。

	定の女性との同居での慣れ		
メス(女性)の発情期(発情状態)の遠方からの感知 その方法	できない 科学的分析、言語コミュニケーション、または特定の女性との同居での慣れ	しばしばできる 共感覚	できる(できなければ種の存続に関わる) 共感覚か
メス(女性)の排卵のコントロール	できない	半随意的にできる (排卵が完全に不随意的だと断定できない女性が周辺に何人もいる。女性当人たちは気付かない。)	コントロール可能な種が多数発見されている。鳴き声や交尾行動でメスの排卵を操る。
周辺メス(女性)の性周期に連動する体調の変化	なし(配偶者がいる場合は、稀にあり)	あり	あり
メス(女性)の唇の色や温度からの排卵・月経の感知	できない	稀にできる(唇に聞こえる音からも)	ヒトのような赤い唇を持たない。四足なので、直接外性器の色で把握できるが、独立した視覚かは不明。(網膜の構造もヒトと異なる。)
メス(女性)の肌の色や温度からの排卵・月経の感知	できない	稀にできる(肌に聞こえる音からも)	できる。体は体毛に覆われ、かつ衣服を着ないので、多くの哺乳類のオスにとって、「メスを見る」ということは「メスの体毛を見る」ことである。
メス(女性)の体毛・髪の色や温度からの排卵・月経の感知	できない	極稀にできる(髪に聞こえる音からも)	
音感	相対音感(ただし、絶対音感保持者もい	絶対音感	完全な絶対音感を保持か

	る)		
ヒトのメス(女性)の声 とその他の動物のメス の声の区別	絶対的な境界	稀に曖昧	全く区別無し
言語	日常的に使用	日常的に使用	言語を持たない
文字	日常的に使用	日常的に使用	文字を持たない
文字の記憶方法・読 み方	文字の形状に音声 を当てる	共感覚で見た覚えの ある色をした形状を 文字と認識	文字を持たない
文字や記号と、風景と の区別	絶対的な境界	しばしば曖昧	全く区別無し
言語認識世界	主格・対格型	能格・絶対格型	言語を持たない
上記の文法を持つ言 語の分布	現代英語・現代欧州 語・現代日本語	上古代～江戸時代 日本語・現行の少数 民族言語・先進国内 の少数言語(バスク 語・ブルシャスキー 語など)	言語を持たない

岩崎純一

サイト:<http://iwasakijunichi.net/>

第二部 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計

2005年3月8日 起筆

2005年3月15日 公開

2017年3月13日 最終更新

このページには、基本的な共感覚（2005年の初公表時の内容）や基本的な共感覚の続編（詳細な解説・画像・動画）や応用的な共感覚（詳細な解説・画像・動画）のページをご覧いただく際に参考になる「私の知覚世界」についての解説のほか、私のサイトや共感覚関連の集いで得られた調査結果を掲載しています。

必要に応じ、ユーザー名・パスワード共に「[iwasaki-j](#)」でご覧下さい。

なお、共感覚に関連する知覚様態・症状の一覧もご参照下さい。

（私に限らず、共感覚者が一般に保持しやすい知覚様態・症状を、下掲のご訪問者の統計から抜き出してまとめたページです。）

私の知覚世界全般の解説

時期的には、基本的な共感覚の続編（詳細な解説・画像・動画）の前後に並行して執筆・作成したものです。

●私の知覚世界(1)（一般の五感との違い）（PDF）

●私の知覚世界(2)（共感覚以外の感覚・症状）（PDF）

●直観像記憶と共感覚

直観像記憶と共感覚

「[岩崎純一のウェブサイト](#)」へのご訪問者の統計

「精神病理学・精神疾患の研究」の「今までの交流の概要」にも掲載しており、並行してご覧いただくことをお勧めします。

●「[岩崎純一のウェブサイト](#)」へのご訪問者の統計（1）（PDF）

●「[岩崎純一のウェブサイト](#)」へのご訪問者の統計（2）（PDF）

各種調査

●色彩に関するアンケート（PDF）

2009年まで実施していたアンケートです。結果は拙著『音に色が見える世界』に掲載しています。

●日本の共感覚者女性の初潮に関する研究（PDF）

非常に変わった研究ではありましたが、「共感覚の保持期間の長さ」と「個体の成長の緩慢さ」との有意な関係を女性において示すことができました。ご協力下さいました全ての女性の方々に改めて厚く御礼申し上げます。

第三部 日本の共感覚者女性の初潮に関する研究

2006年7月10日 起筆

2009年11月15日 女性施設の閲覧室にて公開

2016年9月11日 最終更新

一般利用者には非公開。閲覧希望者は個別に岩崎まで問い合わせよ。

関係女性は、各女性施設の閲覧室にて閲覧可能（閉架式）。当該閲覧室を訪れよ。

第四部 日本の共感覚者女性の性的特徴に関する研究

2006年7月10日 起筆

2009年11月15日 女性施設の閲覧室にて公開

2010年9月20日 最終更新

一般利用者には非公開。閲覧希望者は個別に岩崎まで問い合わせよ。

関係女性は、各女性施設の閲覧室にて閲覧可能（閉架式）。当該閲覧室を訪れよ。

第五部 私の対女性共感覚記録

2006年7月10日 起筆

2010年7月24日 女性施設の閲覧室にて公開

2016年9月11日 最終更新

一般利用者には非公開。閲覧希望者は個別に岩崎まで問い合わせよ。

関係女性は、各女性施設の閲覧室にて閲覧可能（閉架式）。当該閲覧室を訪れよ。

第六部 『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』（電子書籍版を含む）

岩崎純一 著

2009年6月3日 起筆

2011年5月30日 出版、発売

新書本及び電磁的記録（電子書籍用各データ）

書店、電子書籍販売サイト、出版社、国会図書館、公立図書館

有料（国会図書館、公立図書館を除く）

幻冬舎

幻冬舎新書

ISBN 978-4-344-98213-0

著作者が出版社に権利の一部を譲渡

著作者及び著作権者への問い合わせが必要



目次

■序 この本で告白する私の感覚

■第一章 この性的感覚の特徴

感覚が最も鋭かった幼少期/五歳頃から十二歳頃まで、「二重人生」の始まり/「美しさと表裏一体の苦しさ」に悩んだ十三歳頃から十八歳頃まで/十九～二十歳頃、女性の色を書き留め記録を始めた/「共感覚」という概念に出会った二十一～二十二歳頃/他者と共有できるようになった二十三歳頃から現在まで/子孫を残してくれやすい年代の女性に対して発揮

■第二章 この性的感覚の探究に向けて

この感覚を何と名付けようか/この性的感覚を証明するとしたら/「共感覚」との出会い/

幼児における共感覚の普遍性について/目視のみで女性に触ってしまう感覚の扱い/オーラ・ブームに対処した日々/「排卵」「性器」という言葉がない時代/「昔の日本女性にできていたこと」に頼ってみよう/私が自分の性的感覚に対して持っているべき姿勢とは

■第三章 男女の体の仕組みから私の性的感覚を考える

私は女性の何を感知しているのか/想像妊娠/動物のオスの性的能力/周期排卵と交尾排卵/卵胞波/初潮の低年齢化と精通の高年齢化/フラットなオス/性同一性障害や同性愛と私の性的感覚との対比/性染色体との関連/「共感覚」の概念にも少し不満を持った私/一般男性がこの性的感覚を得るとどうなるのだろう

■第四章 昔の日本男性の女性観から私の性的感覚を考える

和服と私の性的感覚との心地よい関係/上古代日本の女性の装身具・身体加工の意味/ネイティブ・アメリカンと鳥居/「人を思いやる」とはどういうことか/歌舞伎の女形・和歌の代理詠/日本文化研究者による「共感覚」研究の質の高さ/「一脳一自我」の不安定さ/自由意志/ラプラスの悪魔/禪と私の性的感覚

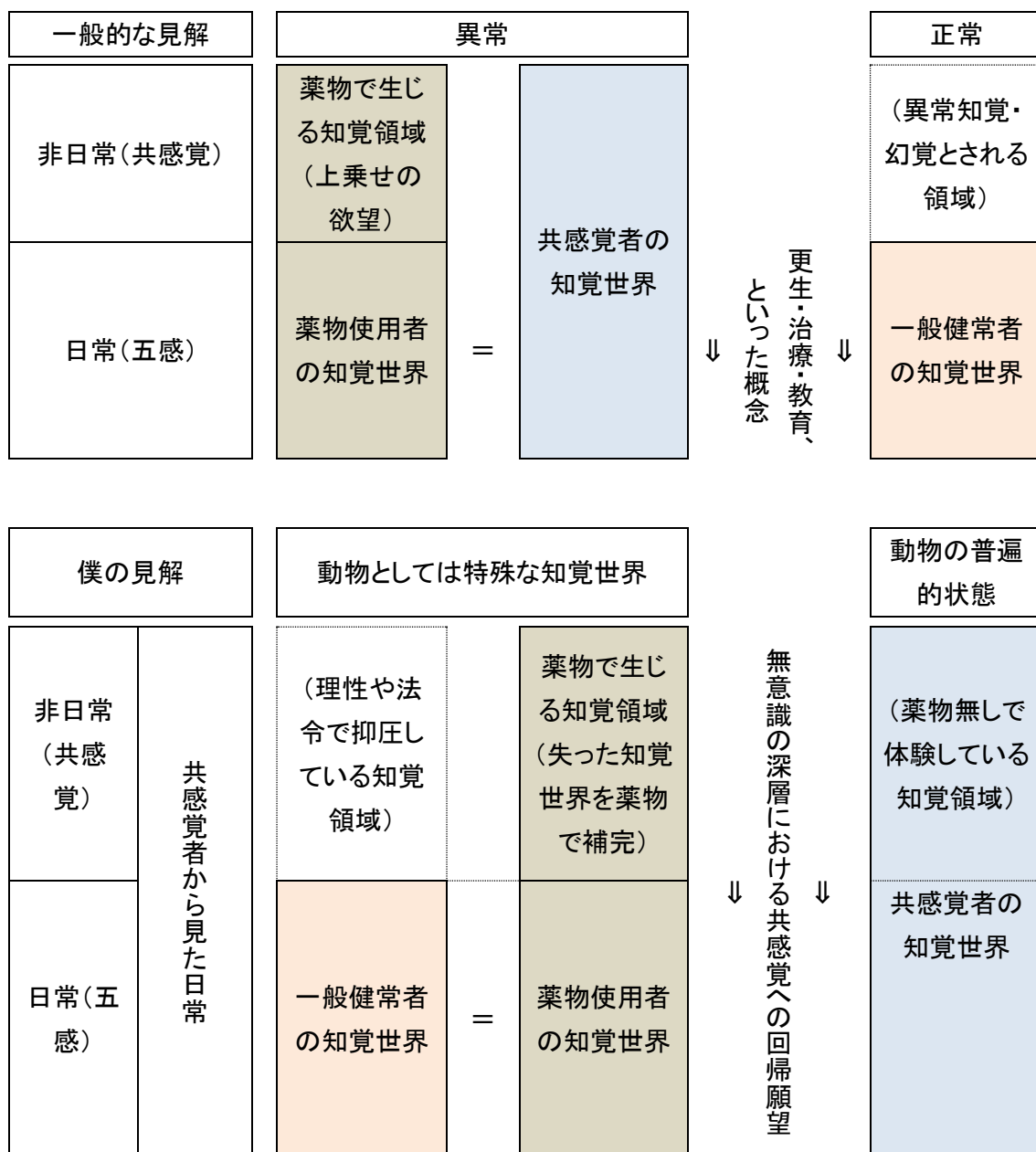
■結 私の性的感覚のこれから

■主な参考文献

第七部 薬物使用者に見られる共感覚体験欲求の機序

2009年8月7日 起筆

2012年1月22日 最終更新



第三編 三十歳～三十九歳

第一部 拙著が出版されます

2011年5月26日 起筆、擱筆、公開

拙著が5月30日に出版されます。

<http://www.gentosha.co.jp/book/b5124.html>

『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』（幻冬舎・新書）

目次

■序 この本で告白する私の感覚

■第一章 この性的感覚の特徴

- 感覚が最も鋭かった幼少期
- 五歳頃から十二歳頃まで、「二重人生」の始まり
- 「美しさと表裏一体の苦しさ」に悩んだ十三歳頃から十八歳頃まで
- 十九～二十歳頃、女性の色を書き留め記録を始めた
- 「共感覚」という概念に出会った二十一～二十二歳頃
- 他者と共有できるようになった二十三歳頃から現在まで
- 子孫を残してくれやすい年代の女性に対して発揮

■第二章 この性的感覚の探究に向けて

- この感覚を何と名付けようか
- この性的感覚を証明するとしたら
- 「共感覚」との出会い
- 幼児における共感覚の普遍性について
- 目視のみで女性に触ってしまう感覚の扱い
- オーラ・ブームに対処した日々
- 「排卵」「性器」という言葉がない時代
- 「昔の日本女性にできていたこと」に頼ってみよう
- 私が自分の性的感覚に対して持っているべき姿勢とは

■第三章 男女の体の仕組みから私の性的感覚を考える

- 私は女性の何を感じているのか
- 想像妊娠
- 動物のオスの性的能力
- 周期排卵と交尾排卵
- 卵胞波
- 初潮の低年齢化と精通の高年齢化
- フラットなオス
- 性同一性障害や同性愛と私の性的感覚との対比
- 性染色体との関連
- 「共感覚」の概念にも少し不満を持った私
- 一般男性がこの性的感覚を得るとどうなるのだろう

■第四章 昔の日本男性の女性観から私の性的感覚を考える

- 和服と私の性的感覚との心地よい関係
- 上古代日本の女性の装身具・身体加工の意味
- ネイティブ・アメリカンと鳥居
- 「人を思いやる」とはどういうことか
- 歌舞伎の女形・和歌の代理詠
- 日本文化研究者による「共感覚」研究の質の高さ
- 「一脳一自我」の不安定さ
- 自由意志
- ラプラスの悪魔
- 禅と私の性的感覚

■結 私の性的感覚のこれから

■主な参考文献

第二部 拙著『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』について

2011年5月31日 起筆、搁筆、公開

新しい拙著は、26日あたりから店頭には並んでいたようですが、一応、昨日が発売日でした。すでに色々なご感想を頂いています。ありがとうございます。

「女性の生理現象が分かる私自身の共感覚を、共感覚や閃輝暗点、さらには日本文化や私の人間観などと結び付けて語る」という、相変わらず非常に扱いが難しい話題の本ですが、この本の担当編集者は聡明な女性でありまして、最初から「女性の目線・チェック機能」が入って上梓されたということで、それは良かったことだと思っています。

タイトル決定の動向についても、興味深く見守っていました。「タイトルをこれにします」との連絡を頂いたときには、自分でも「ああ、本当にこれで行くのだろうか」と、さすがに動揺しました。

しかし、色々と天秤にかけて考えた末、私が原案で出した『隠されない排卵 ーある共感覚者男性の独白ー』、『共感覚と人間 ー私の対女性共感覚・ミラータッチ共感覚を中心にー』などの変に凝ったタイトルよりも、いっそのこと、ここは『私には女性の排卵が見える』と言い切ってみるべきだろうと、OKを返しました。いずれにせよ、一度出版してみなければ分からない、という類のテーマだと思います。

私がこの本でやりたかったことは、自分のこの感覚を披露することではなくて、もっと大きなこと、人間存在の根本についての思索の大切さを語ることであり、逆に言えば、私の共感覚や精神疾患の探究の目標はそれ以外にはありません。

ただし、これを語るなら、何か他人の共感覚にかこつけて本を書くより、自分の感覚と昨今の性愛の問題に寄り添いつつ本で語るほうがよいだろう、と感じました。

私の人生の目標と言いますか、生きているうちにやりたいことは、「共感覚」の語や概念を広めることや、ましてや自分の共感覚を広めることできなく、むしろ「共感覚」というテクニカルターム無しで先験的に「人間とはそういうものである」、「人間存在はメランコリーである」と感じる心の大切さを語っていくことですので、この本の内容も、性愛と共感覚という一つのテーマでありつつ、私の人生全体の目標にかかわっています。

性愛や共感覚の問題というのは、大変に感性的でデリケートなもので、またメランコリックな性質を元々帯びているものだと私は思っています。現在の日本の共感覚研究者のほとんどが、心理学者・神経科学者・認知科学者・精神病理学者・医者など自然科学方面であるのは、「とりあえず共感覚の存在を検証・確認し、共感覚者を守るためには、共感覚が元々帯びる感性的性質（メランコリーやエロスや文学的感性）を語ることを回避する分野でしか、共感覚を扱えないから」だと、私は前々からそう思っています。

それはそれで必要な研究だけれども、もう一方の側面も、どうしても同じくらい今の日本にほしいと、私は日々感じて生きています。人間が持ちうる豊かな感性をそのままストレートに語る人がもっといてもいいのではないかと思います。性愛の問題を共感覚に広げたり、鬱病やひきこもりや自殺問題に広げたりして語ることは、私にとっては大変に自然なことであると感じられます。

もっとこれらの問題に多くの日本人が取り組めば、社会はもっと温かいものになるだろう。私はそう思って、この本を書いてみました。

第三部 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計

第一章 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計(1)

2013年1月1日 起筆

2013年3月2日 公開

2016年9月11日 最終更新

別添資料を見よ。

第二章 私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計(2)

2013年1月1日 起筆

2013年6月6日 公開

2016年9月12日 最終更新

別添資料を見よ。

第四部 共感覚に関連する知覚様態・症状

2013年2月5日 起筆

2015年7月16日 公開

2017年9月24日 最終更新

共感覚に関連する以下のような知覚、症状、疾患、心理なども扱っています。これ以外のものも扱っていきます。

直観像記憶、不思議の国のアリス症候群 (AIWS)、絶対音感、閃光暗点・偏頭痛、Highly sensitive person (HSP)、読字障害・失読症・ディスレクシア、発達障害、サヴァン症候群)

なお、これらの知覚や症状の詳しい解説は、以下の岩崎純一会長のサイト内に掲載しております。ご参照下さい。

共感覚に関連する知覚様態・症状の一覧

精神病理学・精神疾患研究

発達障害・学習障害

第五部 共感覚に関連する知覚様態・症状の一覧

2014年10月11日 起筆

2015年2月8日 公開

2017年3月13日 最終更新

概要

直観像記憶（映像記憶）

不思議の国のアリス症候群（AIWS）

絶対音感

閃光暗点・偏頭痛

Highly sensitive person（HSP）

読字障害・失読症・ディスレクシア

発達障害

サヴァン症候群

超音波知覚

女性に特有の症状・知覚について（女性専用スペースの設置）

概要

このページには、共感覚に関連する知覚様態・症状・能力などを挙げています。

むろん、「共感覚」なる概念が中心に位置していてその周囲にこれらの副次的概念があるわけではなく、それぞれがお互いに並列的關係にあるわけですが、やはり第三者に対して最も具体的・視覚的な例示（イラスト・画像・動画などでの表現）をしやすいのが共感覚であり、私のサイトも便宜的にそのようなスタンスとなっています。

ここに挙げたのは、「共感覚に関連する知覚様態の寄せ集め」であり、「私（岩崎純一）が保持している知覚様態」とは（ほとんどが重なってはいますが）必ずしも合致するわけではありません。ここに挙げた知覚様態で私が保持していないものもあれば、私が保持している知覚様態でここに挙げていないものもあります。また、私が保持している知覚様態であっても、全体として、成人後の現在よりも幼少期・児童期・学生期の頃のほうが知覚の強度が大きかった傾向にあります。

むしろ、ここに挙げた知覚様態は、私がサイトを通じて出会ってきた共感覚者が保持している知覚様態を総合したもの（共感覚者の保持率が高いことだけは言える知覚様態のリスト）と言ったほうが的確です。

ただし、私が保持している知覚様態との重なりが極めて大きいのは確かであり、それぞ

れの関連の知覚様態の項に私の保持状況を記述したほか、以下のリンク先のページにも私が保持している知覚様態をまとめてあります。知覚・共感覚トップにも簡単に記載しています。

●私の知覚世界全般の解説とサイトご訪問者の統計

私の知覚世界 1 私の知覚世界 2

直観像記憶（映像記憶）

●映像記憶（Wikipedia の説明）

共感覚者で、かつ直観像記憶かこれに近い記憶様態を持つ人は、少なくないと思います。

私も、一部の物事や学問分野に対しては、成人後の今も直観像記憶を保持し続けています。以下に特設ページを設けています。

【サイト内の関連ページ】

- 直観像記憶と共感覚
- 精神病理学・精神疾患研究
- 発達障害・学習障害

不思議の国のアリス症候群（AIWS）

●不思議の国のアリス症候群（Wikipedia の説明）

巨視感・微視感・時空間感覚の変容などを伴う症状で、私は、脳の発達や心理的・社会的ストレスと関係があると考えています。幼少期・児童期には多かれ少なかれ誰でも体験し、成人後は主に極度のストレスにさらされた状況で発症すると考えます。

私も、幼少期には頻繁に体験し、とりわけ入眠時に見える曼荼羅のような光景は、恐怖・不安・畏怖の対象とも感動的とも言える摩訶不思議なものでした。

【サイト内の関連ページ】

- 精神病理学・精神疾患研究
- 不安障害・恐怖症・強迫性障害・PTSD
- 身体表現性障害
- 解離性障害

絶対音感

●絶対音感（Wikipedia の説明）

音高・音程を色彩で記憶している場合には、当然、絶対音感保持者であると同時に共感覚者でもあると言えます。

私にとっても、絶対音感は成人後も強固に保持し続けている知覚様態の一つです。

閃輝暗点・偏頭痛

●閃輝暗点・偏頭痛（Wikipedia の説明）

視界をキラキラした星や帯状の光がさえぎり、その後にしばしば偏頭痛を生じる症状です。脳の血管の急激な拡張による周辺の神経への圧迫が原因だという説が今のところは有力のようですが、ニューロンそのものの不全・欠陥によるという説もあり、諸説乱立で、いずれにしても確定的な信憑性には欠けるので、ここでは深く触れません。

この症状についても、私は脳の発達や心理的・社会的ストレスと深い関係があると考えています。ICD の疾病リストにおいては、便宜的に精神の疾患ではなく神経系の疾患に分類されていますが、明らかに「発症者の性格」と関係があり、私の周囲でも、とりわけストレスを溜め込みやすい女性に多く発症しています。

ちなみに、芥川龍之介の『歯車』に閃輝暗点と思われる記述が出てきます。

私の場合、小学校・中学校時代に最も頻繁に発症し、その後頻度が少なくなっていき、成人後にはほとんど消失し、発症しても軽度で済んでいます。

【サイト内の関連ページ】

- 精神病理学・精神疾患研究
- 不安障害・恐怖症・強迫性障害・PTSD
- 身体表現性障害
- 解離性障害

Highly sensitive person（HSP）

●Highly sensitive person（HSP）（Wikipedia の説明）

日本語に訳すと、いわば「極度の敏感人間」。分かりやすく言えば、いわゆる「感受性が豊かな人」の存在を理論化した概念です。

私も、これに該当するだろうとの指摘を頂いたことが何度かあります。

ただし、この用語は、宗教家やヨーガ愛好家、スピリチュアル愛好家、トランスパーソナル心理学陣営が好んで用いる用語でもあり、やはり私も含め、立ち位置が異なる人が安易に用いると誤解されやすい用語でもあるので、注意すべきです。

【サイト内の関連ページ】

- 精神病理学・精神疾患研究
- 気分障害
- 不安障害・恐怖症・強迫性障害・PTSD
- 身体表現性障害
- 解離性障害
- 適応障害
- 睡眠障害
- 発達障害・学習障害

読字障害・失読症・ディスレクシア

●ディスレクシア（Wikipedia の説明）

様々な呼称・訳語があり、また呼称・訳語ごとに微妙に意味する内容が異なりますが、大まかに言えば「文字の形状知覚はできているが、意味をとることができていない」状態を言います。

学習障害の一つともされ、共感覚者や発達障害者に多く見かけます。成長するにつれて症状が軽快する傾向にあります。

私も、成人後の現在は全く当てはまりませんが、幼少期・児童期がこの状態であったと自覚しています。

【サイト内の関連ページ】

- 精神病理学・精神疾患研究
- 発達障害・学習障害

発達障害

●発達障害（Wikipedia の説明）

昨今、日本でも話題の発達障害ですが、これも共感覚と深い関係にあります。

私は、このサイトを通じて様々な共感覚者や発達障害者・自閉症児・アスペルガー症候群の方々と交流してきましたが、明らかに発達障害者には共感覚者が多く、共感覚者には発達障害者が多い傾向が見て取れるために、母校の大学などの共感覚研究者に対して（共感覚者・発達障害者の知覚世界の深遠さを肯定的に見て）無謀にも主張したり、著書に書いたりしてきました。しかし、当時（2010年前後）はこのような見解はあまり良く思われませんでした。特に日本では、共感覚研究の側でも精神医学の側でも、このような結び付けはタブーだったようです。

しかしながら、その後数年で、共感覚者と発達障害者（とりわけ自閉症児）との知覚世界の共通性を報告する欧米の研究や論文が日本にも流入し、それを日本の研究者たちも読んだからなのか、私のサイトや著書の視点に対する疑問・批判メールも、なぜか急減しました。不思議なものですが、かなり悔しい思いはしました。

私自身は、発達障害と診断されたことはなく、知人・友人から「アスペ（アスペルガーの俗的な略語）の気があるね」と言われた程度ですが、発達障害者のことは今でも自分の仲間だと思っています。

精神病理学・精神疾患研究内の発達障害・学習障害のページもご覧下さい。

なお、現在は「アスペルガー症候群」などの用語・概念は、精神医学上は破棄されています。日本国民の間では、便宜的に、かつ俗的に「アスペ」などと口頭で用いられていますが、精神医学的な定義とは一致しない場合があります。

【サイト内の関連ページ】

- 精神病理学・精神疾患研究
- 発達障害・学習障害

【関連ブログ記事】

- 「アスペルガー症候群」の廃止や「学習障害」などの名称変更で思うこと

サヴァン症候群

●サヴァン症候群（Wikipedia の説明）

ダニエル・タメット氏のように、サヴァン症候群・直観像記憶・共感覚・アスペルガー症候群の全てを有している人も、世界には存在します。これらの知覚様態・症状は、やはり脳神経系の低次レベルのはたらきにおいて、極めて深い関連性があると言えます。

ただし、実際にサヴァン症候群とされて公式な論文中に言及されている人は世界でたったの数十名しかおらず、これらの人たちは、サヴァン症候群・直観像記憶による膨大な記憶能力だけでなく、世界的にも極めて稀有で強固な共感覚や、社会生活・コミュニケーションに支障が出るほどの重度の知的障害や自閉症を有している人がほとんどです。

時々私を（褒め言葉として）サヴァン症候群だと言って下さる方もいらっしゃいますが、科学的な定義や常識からすれば、当てはまらないとするのが正しいとは言えます。

【サイト内の関連ページ】

- 直観像記憶と共感覚
- 喪失した共感覚
- 精神病理学・精神疾患研究

●発達障害・学習障害

超音波知覚

私のように、超音波が聞こえる人が稀にいます。

(いわゆる若者除けのモスキート音は、可聴音であり、物理学上の超音波ではありません。)

この超音波知覚は、一見すると共感覚とは無関係に思えますが、私の調査や経験一つを採っても、超音波知覚者には明らかに共感覚者が多く、逆もまた然りです。

私は、下記の特設サイトにあるように、超音波知覚者コミュニティ東京というサークルを立ち上げ、活動しています。

【サイト内の関連ページ】

●超音波知覚研究

女性に特有の症状・知覚について（女性専用スペースの設置）

▼ 私をご相談を受けて交流してきた、精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚・症状を持つ女性の皆様に、私のサイト内の女性専用スペースの管理・運営をしていただいております。また、これらの女性の皆様が入居者の多くを占める、シェアハウス型の女性寮も紹介されています。私も寮を支援しています。

女性に特有の症状・知覚については、寮生に解説をお願いしています。

→→ ●精神・身体症状、共感覚、その他の特殊知覚・症状の解説の分担などについて

岩崎純一のウェブサイト 女性専用スペース

岩崎純一のウェブサイト
女性専用スペース
Women Only

第六部 麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ・指定薬物等による共感覚の出現の知見の有無と当該薬物の国際条約及び世界各国・日本国の法令等における扱いとの対応表

日本共感覚研究会

麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ・指定薬物等による共感覚の出現の知見の有無と 当該薬物の国際条約及び世界各国・日本国の法令等における扱いとの対応表

2013年2月10日 起筆、作成及び改訂継続の総会承認

2015年7月16日 公開

2017年1月14日 最終更新、報告

総責任者 日本共感覚研究会 会長 岩崎 純一

掲載サイト <http://iwasakijunichi.net/>

特設サイト「日本共感覚研究会」

厚生労働省、消費者庁、公正取引委員会、東京都に提供

全ての著作者の著作者人格権を侵害しない限り、CC BY-NC-ND 4.0

本表は、摂取・服用により共感覚（Synaesthesia）が生じるとの学術的知見のある薬物について、国際条約及び欧米法における扱いと日本法における扱いとを比較したものである。

注意点は以下の通りである。

- 現在、これらの薬物による共感覚の出現に関する知見は、全てがアメリカ合衆国、ヨーロッパ各国、カナダ、オーストラリアのいずれかの学界において得られたものである。日本においては、共感覚研究者が麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ・指定薬物等の経験者を被験者として募集しその知覚体験を調査した例は、一切見当たらない。
- 国際条約及び欧米法における「麻薬」や「向精神薬」と日本法における「麻薬」や「向精神薬」には、大幅な違いがあり、日本法における「麻薬」のほとんどは国際条約上は「向精神薬（付表 I）」に分類され、国際条約上の「麻薬」は逆に本来の「麻薬」としてのオピ

エートやオピオイドであるアヘンを含む。

- 医学上の「覚醒剤」は日本法における「覚せい剤」と違いがあり、また、日本法における「覚せい剤」は国際条約上は「向精神薬（付表 II）」の「精神刺激薬(Stimulant)」である。
- 日本が麻薬及び向精神薬取締法のほかに独立した法律によって規制している「覚せい剤」、「大麻」、「あへん」の全てが、国際条約又は欧米法に同一の区分概念が存在しない区分概念である。
- 摂取・服用により共感覚が生じるとの学術的知見がある薬物のうち、現在の日本において合法的にそのことが確認可能なものは存在していない。（所持・使用・販売・譲渡・運搬などが全て違法。）
- 欧米と日本におけるこれらの薬物の合法性・違法性の齟齬により、各国によって共感覚について合法的に実施可能な調査研究が異なっている。
- アメリカでは州法により扱いが異なり、州ごとに共感覚について合法的に実施可能な調査研究が異なっている。（一般法では、州法が連邦法よりも優先される。）
- 大学教員などの中にも、共感覚者であることを主張すると同時に、自ら麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ・指定薬物等の合法化活動を展開したり合法化に賛同したりしている者がおり（大麻合法化への賛同の態度を表明している専修大学の研究グループや武蔵大学の北村紗衣専任講師など）、こうして教育者・研究者側に賛同者が存在する限り、これらの薬物等の使用による共感覚体験者の増加問題はいつそう複雑になっていくものと考えられる。
- たとえ欧米においては合法薬物であっても、日本において違法薬物である限り、それを摂取・服用して共感覚を得たか又は得ようとする日本国籍又は日本国在住の者は、日本の共感覚者コミュニティ、少なくとも本会から追放すべきであると本会は考えており、当該人物を発見し次第、警察・厚労省・自治体・保健所等に通報する。

薬物名称	摂取により生じる共感覚の種類や実状	共感覚の出現を報告した主な海外論文・ウェブサイト等	作用・副作用から見た医学上の大分類（世界保健機関、アメリカ精神医学会の知見	国際条約と欧米の法律における規制（【】は薬物の大分類。欧米は主に医療用途の可否が基準で、医学的知見に法律による規制が追随。）	日本の法令（法律、政令、省令等）における規制（【】は薬物の大分類。日本は主に流行や風紀悪化の阻止が基準で、医学的知見に対し法律による規制が遅れがちで
------	-------------------	---------------------------	---------------------------------------	--	--

			に基づ く)		ある。)
LSD (リゼ ルグ酸 ジェチ ルアミ ド)	共感覚的幻覚作用を 引き起こす麻薬のう ち、その検証回数及 び文献登場回数が最 多である。 1960年代初頭より 欧米、60年代後半よ り日本において、サ イケデリック文化の 中で乱用されたが、 英米においては共感 覚体験を目的の一つ とした一方、日本に おいては「共感覚」 の語は見られない が、LSD 流行期の末 期が共感覚の学術研 究の黎明期に重な る。 日本においては、危 険ドラッグの流行へ と移る。	Cytowic, Richard E; Eagleman, David M (2009). <i>Wednesday is Indigo Blue: Discovering the Brain of Synesthesia (with an afterword by Dmitri Nabokov).</i> Cambridge: MIT Press.	【幻覚 剤】	【向精神薬】 向精神薬に関する 条約の付表 I CA: Schedule III UK: CD US: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神 薬取締法
シロシ ビン (4-ホ スホリ ルオキ シ-N、 N-ジメ チルト リプタ ミン)	LSDに匹敵する共感 覚的幻覚作用 マジックマッシュル ームに多く含まれ る。 マジックマッシュル ームは、日本では南 方の島嶼部を中心に 自生し、シビレタケ やヒカゲタケなどと 呼ばれてきたハラタ ケ目のキノコの一群 にほぼ一致する。八 重山列島に自生する ものはミナミシビレ	Ballesteros S, Ramon MF, Iturralde MJ, Martinez-Arri eta R. (2006). "Natural sources of drugs of abuse: magic mushrooms". In Cole SM. <i>New Research on Street Drugs.</i> New York, New York: Nova	【幻覚 剤】	【向精神薬】 向精神薬に関する 条約の付表 I CA: Schedule III UK: Class A US: Schedule I アメリカの一部の 州で強迫性障害や パニック障害の治 療に使用	【麻薬】 麻薬及び向精神 薬取締法

	<p>タケ、小笠原諸島に自生するものはアオゾメヒカゲタケなどと命名されている。規制前には、日本でもこれらの島嶼部を中心に摂取文化があったが、規制後は日本全土で違法に流通し、薬物パーティーなどで使用される。</p>	<p>Publishers. pp. 167–88. 「オルタード・ディメンション」オルタード・ディメンション研究会 http://www007.uapp.so-net.ne.jp/soma/soma/b05_j.html</p>			
シロシン (4-ヒドロキシジメチルトリプタミン)	<p>シロシビンに準ずる共感覚的幻覚作用マジックマッシュルームに多く含まれる。</p>	<p>Diaz, Jaime (1996). <i>How Drugs Influence Behavior: A Neurobehavioral Approach</i>. Englewood Cliffs: Prentice Hall.</p>	<p>【幻覚剤】</p>	<p>【向精神薬】 向精神薬に関する条約の付表 I CA: Schedule III UK: Class A US: Schedule I</p>	<p>【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法</p>
メスカリン (3,4,5-トリメトキシフェネチラミン)	<p>LSD やシロシビンに匹敵する共感覚的幻覚作用</p>	<p>Diaz, Jaime (1996). <i>How Drugs Influence Behavior: A Neurobehavioral Approach</i>. Englewood Cliffs: Prentice Hall.</p>	<p>【幻覚剤】</p>	<p>【向精神薬】 向精神薬に関する条約の付表 I CA: Schedule III UK: Class A US: Schedule I</p>	<p>【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法</p>
大麻 (マリファナ)	<p>大麻成分のカンナビノイド（特にテトラヒドロカンナビノール (THC)）は、強い幻覚作用を引き起こすが、共感覚的幻覚作用は LSD やシロシビンに比べると弱く、むしろ鎮痛作用や多幸感が主。</p>	<p>Cytowic, Richard E; Eagleman, David M (2009). <i>Wednesday is Indigo Blue: Discovering the Brain of Synesthesia (with an afterword by</i></p>	<p>【抑制剤】 【鎮痛剤】 (医療大麻、医療マリファナ) 【麻薬】 アメリカ</p>	<p>【麻薬】 麻薬に関する単一条約の付表 I・IV (大麻、大麻樹脂等) 【向精神薬】 向精神薬に関する条約の付表 II (テトラヒドロカ</p>	<p>【大麻（単独規制）】大麻取締法（大麻の所持、栽培、譲渡等） 麻薬及び向精神薬取締法（テトラヒドロカンナビノール (THC) 等）</p>

		<i>Dmitri Nabokov</i> . Cambridge: MIT Press.	の一部の 州及びカナダ	ンナビノール (THC) 等 CA: Schedule II UK: Class B US: Schedule I オランダ、ウルグアイ、バングラデシュの全土で合法。 アメリカはワシントン州、コロラド州等西部地域で合法。 その他、合法化推進の動きあり。	
アヘン (あへん・阿片)	本来の「麻薬」としてのオピオイドやオピオイドである。五感が混交する作用は目立って報告されておらず、報告された類似の作用も「共感覚」とは異なっている。		【抑制剤】 【麻薬】	【麻薬】 麻薬に関する単一条約の付表 I CA: Schedule I UK: Class A US: Schedule II	【あへん(単独規制)】 あへん法 【麻薬(現在では稀)】 麻薬及び向精神薬取締法
覚醒剤 (アンフェタミン、メタンフェタミン、メチルフェニデート等を含む)	メタンフェタミンとメチルフェニデートについては、五感が混交する作用はあるものの、目立って報告されておらず、報告された類似の作用も共感覚とはやや異なっている。アンフェタミン及びアンフェタミン類の一種である MDMA (別項) については、共感覚の出現が報告されている。		【精神刺激薬】	【向精神薬】 向精神薬に関する条約の付表 II CA: Schedule I UK: Class A – B, or POM US: Schedule II メチルフェニデートのみ、ADHD (注意欠陥・多動性障害) やナルコレプシーの治療に使用。	【覚せい剤(単独規制)】 覚せい剤取締法 【向精神薬】 麻薬及び向精神薬取締法(メチルフェニデートのみ。リタリンなどに含まれる。)
LSA (リゼルグ酸)	多量摂取により LSD に準ずる共感覚的幻覚作用。 海外では共感覚体験のため使用されてい	<i>Erowid Psychoactive Vaults</i> , Erowid.org,	【幻覚剤】	【向精神薬】 UK: Class A US: Schedule III	日本の園芸店でも売られている一部のヒルガオやソライロアサ

アミ ド)	る。	retrieved 2012-02-03			ガオの種子に含まれるが、抽出困難。
MDM A (3,4- メチレ ンジオ キシメ タンフ ェタミ ン)	学術論文による共感覚出現の報告よりも、実際の使用者による共感覚体験の報告が多い。共感覚の出現も見られるが、各五感の過敏化の作用のほうが大きい。多幸福感や共感・共有感などの精神変容をもたらすが、これらは共感覚には該当しない。	Butterfly Bomb. "Synaesthesia & Ecstasy: An Experience with MDMA". Erowid.org. Aug 6, 2002. https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚 剤】 【精神刺 激薬】	【向精神薬】 向精神薬に関する 条約の付表 I CA: Schedule III UK: CD Lic US: Schedule I 1985 年までは欧米 で PTSD (心的外傷 後ストレス障害) の 治療に使用。	【麻薬】 麻薬及び向精神 薬取締法
MDA	同前	MDA erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚 剤】	【向精神薬】 向精神薬に関する 条約の付表 I CA: Schedule I UK: Class A US: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神 薬取締法
bk-MD MA (MD MC、 Methy lone)	同前	bk-MDMA erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚 剤】	【向精神薬】 CA: Unscheduled UK: Class B US: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神 薬取締法
MDEA (MD E)	MDMA と同様の作用をもたらすため、代用される。MDEA の化学構造の亜種が含まれる薬物は、日本で流通する危険ドラッグにも	MDEA erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚 剤】	【向精神薬】 向精神薬に関する 条約の付表 I CA: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神 薬取締法

	含まれている。	m/		UK: Class A US: Schedule I	
bk-MDEA (MD EC、Ethylone)	前述の MDEA の β -ketone analogue (類似の亜種) の一つ。ここ数年で海外の乱用者によって共感覚的幻覚作用が急速に明らかになっているが、日本で流通する危険ドラッグにも多く含まれるようになり、極めて懸念すべき状況にあると考えられる。	https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 schedule 1, positional isomer of butylone	【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法 【危険ドラッグ】 MDEA の化学構造を変えた亜種
AMT (α -メチルトリプタミン)	聴覚の過敏化を中心とする共感覚的幻覚作用が報告されている。	AMT erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 CA: Uncontrolled UK: Class A US: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法
5-MeO-aMT	同前 AMT よりも少量で共感覚が生じるため、オーバードーズの危険性がある。	5-MeO-aMT erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 US: not scheduled	【指定薬物】 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (物質名は省令で定める。)
DMT (ジメチルトリプタミン)	アヤワスカに含まれ、アマゾン地方の一部でシャーマンがこれを摂取する習慣があり、共感覚的幻覚作用が見られる。	DMT erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 向精神薬に関する条約の付表 I CA: Schedule III UK: CD Lic US: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法
5-MeO	同前	5-MeO-DMT	【幻覚剤】	【向精神薬】	【指定薬物】 医薬品、医療機器

-DMT		erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	UK: Class A US: Schedule I	等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (物質名は省令で定める。)
5-MeO-DiPT	性感の強化のために使用されるが、強烈な共感的幻覚作用も伴う。 日本で流通する危険ドラッグにも化学構造を変えたものが含まれており、「共感覚セラピー」などと称するセラピーで使用されているおそれがある。	5-MeO-DIPT erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 UK: Class A US: Schedule I	【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法
5-MeO-MiPT	同前 音の増大など聴覚の異様な変容を伴う共感的幻覚作用。	5-MeO-MiPT erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 UK: Class A US: not scheduled	【指定薬物】 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (物質名は省令で定める。)
5-MeO-DPT	同前 音の増大など聴覚の異様な変容を伴う共感的幻覚作用。	5-MeO-DPT erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 UK: Class A US: Schedule I	【指定薬物】 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (物質名は省令で定める。)
PCP (フェンサイクリジン)	共感的幻覚作用が見られるが、そのような知覚変容よりは失見当識・妄想の症状など、統合失調様の症状を呈する。	phencyclidine erowid.org https://drugs-forum.com/forum/	【幻覚剤】	【向精神薬】 向精神薬に関する条約の付表 II CA: Schedule I UK: Class A US: Schedule II	【麻薬】 麻薬及び向精神薬取締法

【参考文献】

◆国際条約

麻薬に関する単一条約（Single Convention on Narcotic Drugs、1961～）

向精神薬に関する条約（Convention on Psychotropic Substances、1971～）

麻薬及び向精神薬の不正取引の防止に関する国際連合条約（United Nations Convention Against Illicit Traffic in Narcotic Drugs and Psychotropic Substances、1990～）

◆日本法

麻薬取締法（1953～）

麻薬及び向精神薬取締法（現行の麻薬取締法、1990～）

大麻取締法（1948～）

覚せい剤取締法（1951～）

あへん法（1954～）

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（1960～）

麻薬、麻薬原料植物、向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令（1990～）

国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律（麻薬特例法）（1991～）

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第2条第15項に規定する指定薬物及び同法第76条の4に規定する医療等の用途を定める省令（2007～）

◆海外サイト

<http://www.deadiversion.usdoj.gov/>（U.S. DEPARTMENT OF JUSTICE・DRUG ENFORCEMENT ADMINISTRATION Office of Diversion Control）

◆日本サイト

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakubuturany

『岩崎純一全集』第五十五卷「科学技術、産業（一の五）」

ou/

（「薬物乱用防止に関する情報」厚生労働省）

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/no_drugs/（東京都福祉保健局）